

## ★ 車いすの人へのお手伝い

車いすに乗っていると、急な坂道（勾配）や段差を越えられなかったり、ボタンに手が届かなかったり、上の方に書いてあるものが見えないことがあります。困っている人がいたら、「どうしましたか？ なにかお手伝いしましょうか？」と声をかけてみましょう。

### お手伝いのポイント

- 車いすの人と話すときは、上から見おろしながら話すのではなく、少しかがんで視線を合わせて話すと、気持ちが伝わりやすくなります。
- 車いすの人と一緒にエレベーターに乗るときは、その人を優先しましょう。車いすの人が乗り降りしている間は、安全に乗り降りが終わるまで「開」のボタンを押しておきましょう。
- 車いすを動かしたり持ち上げたりするのは、とても危険です。絶対に無理をしないで、不安なときはまわりの人たちに協力してもらいましょう。

### 坂道やスロープでのお手伝い



上りは、身体を少し前に傾けて押します。思った以上に大きな力が必要です。押し戻されないように注意します。



下りは、後ろ向きで下ります。後ろの障害物等に十分に注意します。

※ゆるやかな下りは前向きでもかまいませんが、引っぱられているように感じる場合は後ろ向きのほうが安全です。

### 段差の越え方

〈上がるとき〉



ひと声かけてからレバーをふみこみ、前輪を上げます。



前輪を段に乗せます。



後輪をゆっくり持ち上げます。

〈下るとき〉



ひと声かけてから後ろ向きにし、後輪をゆっくり下ろします。



レバーをふみこんで前輪を上げ、後ろに下がります。



前輪を下ろします。

# ★ 目の不自由な人へのお手伝い

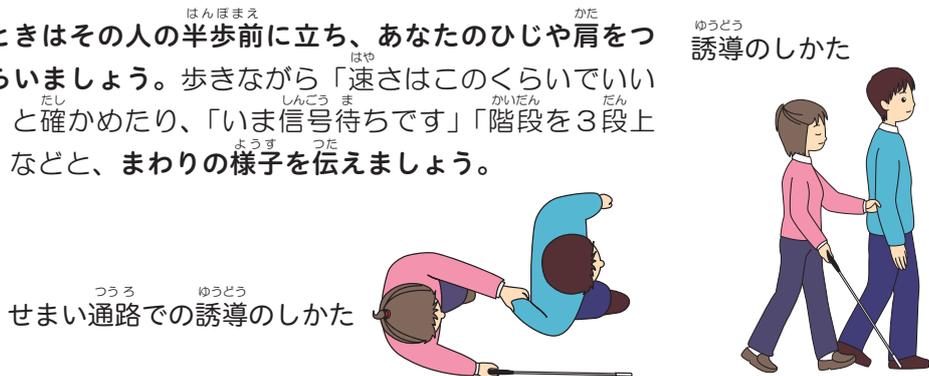
目の不自由な人、というと、全く見えない「全盲」の人を想像しがちです。しかし、「弱視」といって、光を感じたり、物の輪郭が分かったり、誘導用ブロックの黄色いラインを目印にひとり外出できる人もいます。その人の手伝ってほしいことや、状況に応じて必要なお手伝いをするようにしましょう。

## お手伝いのポイント

- まずは声をかけ、手助けが必要かどうかを確認しましょう。とつぜんからだに触れたり、白い杖をつかんでひっぱったりすると、びっくりさせて思わぬ事故につながる可能性があります。



- 誘導するときはその人の半歩前に立ち、あなたのひじや肩をつかんでもらいましょう。歩きながら「速さはこのくらいでいいですか？」と確認めたり、「いま信号待ちです」「階段を3段上がります」などと、まわりの様子を伝えましょう。



- 「これ」「そこ」「あっち」などの言葉は使わないようにしましょう。目の不自由な人に「トイレはどこにありますか？」と聞かれて、「あっちにありますよ」と指をさしても、伝わりません。「右に曲がって5メートルほど進んだところにあります。よかったらご案内しましょうか？」というように具体的にわかりやすく説明するようにしましょう。

### ✕ よくない説明



### ○ 具体的でよい説明

